

行政視察報告書

委員会名（会派名）	市民クラブ、共産党燕市議団	報告者	柳川
視察日程	令和元年11月5日～7日		
調査事項 及び 視察地	① 茨城県日立市 「日立市ランドセル、スクールカバンについて」		
	② 茨城県笠間市 「移住・二地域居住について」		
	③ 茨城県ひたちなか市 「ひたちなかまちづくり株式会社について」		
参加議員（委員）	渡邊 広宣、柳川 隆、タナカ・キン、土田 昇、宮路 敏裕		
<p>【調査目的・内容】 子育て支援策について ・ランドセル贈呈 ・スクールカバン贈呈 ・その他施策全般</p> <p>【所感】 市オリジナルランドセルを新小学1年生へ贈呈する取り組みのきっかけは、第一次オイルショックの影響後の物価上昇による保護者の経済的負担軽減と入学祝として始まった。また、スクールカバン贈呈の導入も同様に、保護者負担軽減と入学祝を目的としており、教育環境の更なる充実のために令和2年度から新中学1年生へ贈呈を行う取り組みを始める。</p> <p>●対象児童（全員）ランドセル 1,231名 ●対象生徒（全員）スクールカバン 1,500名</p> <p>実際にランドセルを見せてもらったが市販の物よりひとまわり小さく、色は「赤」と「黒」のみであった。質疑の中で、ランドセルの色について議員から「もっと他の色も採用したらどうか」という質問に対し、「参考にしたい」という回答があるなどその他意見交換を行った。</p> <p>① 本事業は、未来を担う子どもたちへのプレゼントということで、日立市で子育てを行う保護者を支援する取り組みであり、特色ある教育施策であると感じた。燕市においても日立市と同じ事業をするべきという単純なものではないが、また違った視点で取り組むことは参考になると感じた。</p>			

【調査目的・内容】

移住・二地域居住について

- ・かさちよこHOUSE
- ・空き家、空き家バンク

【所感】

本事業は、人口減少時代への新たな挑戦として、定住化促進プロジェクトの一環として立ち上げられた事業である。移住の推進策とは、「来訪」⇒「再来訪」⇒「短期滞在（二地域居住）」⇒「移住」という流れを想定し進めている。具体的には、

② ●来訪、再来訪⇒「笠間ファンクラブ推進事業」（笠間市民と笠間市以外に暮らしている方との交流の場）

●短期滞在（二地域居住）⇒「ちよこっと移住体験 定住化促進事業」（移住を検討している方が一定期間笠間市に滞在する）

という二つの促進事業を行っている。

質疑の中で「二地域居住事業で空き家の利活用は考えているのか」という質問に対し、「空き家は関連づけていない」という回答があるなどその他活発に意見交換を行った。

燕市においては、ファンクラブの位置づけのものはあるが、短期滞在事業は行っていない。費用対効果などの部分も含めて研究していく。

【調査目的・内容】

- ・空き店舗チャレンジショップ事業について
- ・まちづくり株式会社について

【所感】

③ ひたちなかまちづくり株式会社誕生の一步は、ひたちなか商工会議所がひたちなかのまちづくりに対し強かに支援、推進していくために、独自にまちづくり会社を立ち上げる決意をしたことに始まる。歴史・文化を伝承しつつ、自分たちの手による自分たちのまちづくりを実践するため、まちを愛する人の輪を広げ、「人」と「人」、「人」と「こと」すべての交わりの場として「TA・MA・RI・BA」を創造した。

社長の説明を聞く中で、「この地域は昔からの定住者が約2割、他からの移住者が8割で占められており、それがこの街の気風である「なんでもやってみろ」を生んでおり、この事業も市民の理解が得やすかった」とのことだった。質疑の中で「この会社を立ち上げる時、その気風を最初から意識していたのか。それとも後になって結果的にそう思ったのかどちらか」という質問に対し、「当初から意識をしていた」と回答された。

燕市においても、様々なまちづくりの動きが出てきており、このような動き、取り組みも参考にしていきたいと感じた。

【視察の様子】

① 茨城県日立市



② 茨城県笠間市



③ 茨城県ひたちなか市

